

農業機械化広報

2007
9月号
印刷版

農業資材審議会農業機械化分科会

農業機械を巡る現状・課題と今後の方向の中間整理

農林水産省は9月4日、省内で農業資材審議会農業機械化分科会第6回会合を開き、これまでの議論を中間整理（案）として示し、その内容を検討した。またこれに先立ち、農林水産省から「農業機械の輸出入等の状況」について説明があった。



農業機械の輸出入等について

「農業機械の輸出入等について」は、国際的な観点から農機の動向を捉えるため、トラクターと刈払機について、国内の出荷状況、世界の輸出入状況、日本の輸出入状況などを取り纏めたもの。内外共にここ数年輸出が増加傾向にあること、特にアジア等で増加していること、輸出国数もアジアが増加していることなどが説明された。また、日本への輸入については、トラクターは韓国、ベトナムから大きな割合を占めると同時に、最近ではブラジル、中国、インドから一定台数が輸入されていること、刈払機は輸入が近年急増し、特に中国と台湾からの輸入が大幅に増加していることなどが紹介された。

農業機械化の方向の中間整理

中間整理については、その案が農林水産省から委員に説明され、これについて意見を交わして取り纏めた。今後、これを元に具体策を詰め、今年12月～来年1月頃に開催の第7回目の分科会に中間整理を踏まえたとりまとめと基本方針等の具体的な内容を諮ることにした。

中間整理（案）は、今後の方向として、1．農業機械の研究開発、2．農業機械費の低減対策、3．農作業安全対策、4．農業機械の型式検査、5．環境負荷の低減に向けた農業機械関連対策—の5項目について基本的な考え方を述べている。



楽しい日本をつくる。

これからは、キャビンで快適!

バックモニター映像



乗ったまま後方確認。
業界初※1 バックモニター搭載!※2

四隅や枕地での切返し	後方の安全確認
後進であぜ際につける時	後進での納屋への格納
後進での排ワラの確認	



ありがとうございます。
40年。

ミズノ所属
室伏広治

株式会社クボタ 〒556-8601 大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 ●<http://www.kubota.co.jp> ※1 2006年10月現在 ※2 今般の安全番号に装備

1. 農業機械の研究開発

農業機械の研究開発については、(1)研究開発の基本的な方向、(2)開発・実用化に関する公的機関の役割、(3)IT・ロボット技術等先端技術の農業利用に向けた取組の強化 - の各項目があげられた。

(1)では、農作業における安全性の確保にも配慮しつつ、[1]更なる省力・低コスト化、規模拡大、高品質化などの推進に向け、IT・ロボット技術等の先端技術なども活用した革新的な農業機械及び機械化体系、[2]食品の安全と消費者の信頼の確保や、バイオマス利用による温室効果ガスの削減を含む環境負荷の低減など社会的なニーズに対応した農業の実現—に関する研究開発を重点的に推進するとした。

(2)では、生研センターを中心とした開発・実用化の役割は重要性を増しており、引き続き緊プロ事業を実施することが必要だとし、その成果の充実のために、[1]農業者、普及組織、栽培に係わる研究者、都道府県等の地方公共団体、農機メーカーなどから幅広く意見を聴く場を設ける等、透明かつオープンなプロセスで開発・実用化機種の選定等に向けた検討を行うこと、[2]開発当初から、ターゲットとなる特定の産地や農業者との連携を更に強化することにより、開発機の機能や構造に生産現場の実態やユーザーのニーズをより一層反映させるとともに、機械化に適した品種や栽培技術に関する研究開発との連携を強化すること—も含め、開発・実用化プロセス等の更なる改善を図るとした。

さらに、こうした開発プロセスの管理等を効率的に行うため、開発機種ごとに研究機関、産地、行政等の組織を横断したプロジェクトチームを生研センターに設置することについても検討する必要があるとしている。

(3)では、従来の農業経営や生産体系を変革するようなイノベーションを起こし、大幅な省力・低コスト化、大規模化や高品質化のほか、環境負荷の低減などを可能とすることが必要だとし、先端技術に取り組んでいる他分野との連携を行って、新たな農業機械を開発していくことが重要だとした。そして、生研センターにおいて、関連技術のデータベースを作成するとともに技術交流の場の提供やシンポジウムの開催等を通じてこの分

野の研究をコーディネートする役割を強化することにより期待。また、IT・ロボット技術等先端技術の農業利用の将来像が具体的に示され、生研センターをはじめとした関係機関における研究開発の促進や他分野との連携や農業分野への応用や参入を促進することも重要だとしている。

2. 農業機械費の低減対策

今後の方向として、供給面では、製造コストの削減のため、型式の集約、規格の共通化等の取組を進める必要があるとし、流通段階においては、販売業者と製造メーカーとの連携の下で、機能を絞った低価格な農業機械の供給や安全に留意した上での中古農機の活用等の取組を引き続き推進することが必要としている。このうち、機能等を絞った低価格な農業機械については、安全性の確保にも十分配慮しつつ、PR活動等を通じて農業者の選択肢を拡大することが必要だとした。

利用面においては、農業機械の稼働面積の拡大等効率利用を今後とも推進。国が定める基本方針については、集落営農を含む担い手の規模拡大や農業機械費の低減を支援する方向で検討する必要があるとしている。

さらに、作業中の故障による経営リスクの軽減のために、製造、流通段階における修理部品の迅速な供給や利用段階における省エネ運転方法の実践、農閑期の定期点検の実施等を推進することも必要だとしている。

3. 農作業安全対策

今後の方向については、効率的な農作業安全対策の強化を図ることが重要だとし、留意点として、[1]安全キャブ・フレーム付きのトラクター等、安全面での装備や機能を備えた農業機械を使用することで事故のリスクを低下させることができるので、こうした点を周知し、安全で信頼性の高い農業機械の製造・流通を確保する観点から、型式検査や安全鑑定のある方について更に検討を進めること、[2]安全な機械操作等に係る基本的な技能を修得させる研修及び指導体制を強化すること、[3]使用者に対して定期的な点検・整備等に係る指導・啓発を強化すること、[4]農業機械の道路走行に当たっての基本的な法律を周知し、一層の遵守を促すこと、[5]農業機械士等の現場段階での指導



体制を有効に活用して、地域の安全啓発に向けた運動を盛り上げていくこと、[6]関係者等からの情報の収集により、現在の死亡事故調査に加え、より広範かつ詳細な事故の実態、状況等を蓄積・分析し、迅速かつ適切に情報提供を行っていくための仕組みを検討すること—をあげている。

4. 農業機械の型式検査

今後の方向として、より効率的な運用となるよう工夫しながら、基本的にこの型式検査の制度を維持・活用していくことが重要だとし、その上で、特に安全性の確保・向上に資する観点等から、どのように見直し・強化が必要かを検討していくことが求められるとしている。

さらに、環境負荷の低減に係る性能等に優れた機械の開発・普及が重要となっていることから、これに貢献できる検査制度等のあり方についても検討を進めていく必要があると指摘している。

5. 環境負荷の低減に向けた農業機械関連対策

今後の方向としては、農業生産における環境負荷の低減を実現するため、環境保全型農業の推進に資する農業機械のほか、燃費の向上や作業工程の省略化に資する農業機械、バイオマス利用に必要な農業機械等に関する研究開発を推進する必要があるとし、そうした農業機械の開発・普及を促進するための検査や情報提供のあり方についても検討を進める。

さらに、「農業機械の省エネ利用マニュアル」の普及・啓発や内容の充実・強化を図ることが重要とし、このほか、バイオディーゼル燃料(BDF)等の農業機械における利用を推進するため、これまでの研究成果等を取りまとめ、農業機械において長期的かつ安定的な利用に向けたガイドラインを策定するとともに、その普及・促進を図ることが必要であるとしている。

委員からの主な意見

これについて委員からは、「最初に農業機械が農業生産に重要な手段であることをはっきり打ち出すべきだ」、研究開発については「新しい栽培技術を創り出すという視野も入れてほしい」、「農業者の開発ニーズを汲み上げる具体的な仕組みが重要だ」、「農機メーカーが取り組めないようなマーケットサイズが小さいところの機械を開発しても、コストのかかる機械になってしまうのではないか」、農業機械費の低減については、「農機だけでなく農業全体としてのコストダウンの視点が必要」、「圃場整備など機械を巡る環境についても盛り込むべきだ」、農作業安全については、「地域における農作業安全活動の重要性を強調してほしい」、「安全研修の受講の制度化や労災保険特別加入の義務化などの対策を」などの意見が出された。

第 32 回 農業機械士全国大会鹿児島大会の事例報告と講演から

7月に鹿児島県指宿市で開かれた第32回農業機械士全国大会鹿児島大会の席上、事例報告として、鹿児島県出水市高尾野町女性農業機械士会の嶋田信子氏が「はばたけ かごしま サムアップレディース」と題して、女性農業機械士の活動内容を語った。また、講演では、鹿児島県厚生農業協同組合連合会健康管理センター副所長の草野健氏は「かごしまの『食』と『農』を考える」と題して健康管理に重要な役割を果たす「食」、その食材を供給する「農」の大切さを述べた。ここでは、その要旨を紹介する。(文責=本会)

「はばたけ かごしま サムアップレディース」

(出水市高尾野町女性農業機械士会 嶋田 信子氏)

女性の農業経営への参画促進を目指して

私たちの会は、平成11年10月6日設立されました。会の目的は「農業機械の女性への普及奨励ならびに、その安全な機械作業の啓蒙を図り、女性の農業経営への参画を促進する」ということです。

設立して間もない頃、先進地視察では佐賀県のレモンズの方々にお世話になり、活発な活動を展

開されている事例などを紹介して頂き、良い刺激を受けました。交流会の場で全員お揃いの紺のユニホームで出席されました。ユニホーム着用のきっかけや効果について、作業上の安全性やファッション性、メンバーの意識高揚など、貴重な意見を頂きました。早速、私たちサムアップレディースも、スタッフジャンパーを揃えました。機会あるごとに着用しています。

機械的なメンテナンスは、まだまだ覚束ないメ

ンバーではありますが、研修会などで得た知識を足がかりに、機械作業も少しずつ自信が持てるようになりました。

私は以前、参加した会の中で、農業は最もパートナーシップをとりやすい業種であるという意見を耳にしました。単に農作業の補助者としてではなく、農業経営をともに担うパートナーとしてお互いを認め合いながら共に学び、共に働く、素晴らしいことだと思います。女性が一步踏み込み、肩を並べ、経営に積極的に参加することで効率の良い農業経営が展開できるのではないのでしょうか。いま農業は、「作れば売れる」ではなく、付加価値や安全性が求められる時代になりました。農業履歴や生産履歴など、データ管理と責任を持たなければなりません。その分、女性の役割も大切です。パートナーとして今こそ女性の持ち味を生かし、男でなければできないこと、女だからこそできることをより分けながら、大いにパートナーシップを発揮しましょう。

女性が輝けば家庭が輝き、地域も輝きます。私たちサムアップレディースも、地域で頑張る女性達のアンテナになれるように、知識を深めながら、研鑽に努め、技術の向上を目指し、輝く女性、輝く農業のメッセンジャーになれるよう、努力したいと思います。

積極的に展示会、研修に参加

毎年秋に開催されるJAの農業機械大展示会には、私たち会員も夫婦や親子で参加していますが、機械購入においてはお互いに意見を出し合い、納得のいく機械導入がなされているようです。

農作業には危険も隣り合わせです。春と秋に実施される農作業事故防止の現地研修など、安全な作業を今一度認識するためにも積極的に参加したいと思います。

昨年12月には、新たに2名、免許を取得し、会の仲間入りをしました。若い2人が加わり、平均年齢もかなり若返りました。今後の活躍に期待しています。

県立農大で開催されるトラクター耕の技能大会にはできる限り参加し、1名ないし2名は選手として出場するように心がけていますが、新メンバーの若い2人が出場する日もそう遠くない気が



します。努力して資格を取得した彼女たちが自信を持って農業機械に慣れ親しんでくれることを期待しています。

時折開かれる定例会では、葉たばこの話で時が経つのも忘れるほどです。出水では葉たばこは水田に耕作します。収穫の終わった圃場はすぐに水を引き、残幹をトラクターで耕うんしますが、水張りした田んぼでトラクターを操作する会員を見かけると、遅しく頼もしい限りです。農業に前向きに取り組み、光輝いています。

高尾野町には30年近い歴史を持つ男性機械士会があります。長い歴史の中で、親子2代にわたっている会員も少なくありません。親から息子へと引き継がれています。活発な活動がなされており、2年に1度ですが、私たちサムアップレディースとの交流会もあります。河原で家族も加えてのバーベキューでは、お互いの親睦を深めながらビール片手に話に花が咲きます。これからも男性機械士会の活動をお手本に、頑張りたいと思います。

息子とともに我が家の農業を築く

人生には様々な出会いがあります。農業を大嫌いだった私が、農家の一人息子である夫と出会い、21年間、農業者として育ててもらいました。あらゆることに背中を押してくれて、体験をし羽ばたかせてもらいました。

8年前、夫は長男の就農を楽しみに夢をふくらませ、親子での農業経営を思い描いていました。けれども志半ばですべてを私と長男に託し、黄泉の国へと旅立ちました。信頼しきっていたパート

**三菱農業機械**
三菱小型乗用2条刈コンバイン
レセルダ
VMS11
三菱農機株式会社 営業本部 東京都中央区日本橋大伝馬町3-2

**ディーゼル
エンジン
搭載!!**

**VMS11 KC**



ナーを失った現実の中で、一人歩きの農業経営がこんなにも心細いものかと痛感し、片意地張っても本音は先行き不安とさみしさで、胸は押しつぶされそうな自分との戦いです。

農業は一朝一夕に築けるものでもなければ、一息に幕を引き下ろせるものでもありません。土俵は小さくし、仕切り直し、長男と経営を続けていけるのは農作業や機械の操作について農業のノウハウを、農業が大嫌いだった未熟な私に手を取り足を取り教え込んでくれた夫のおかげです。また、私たち親子を陰になり日向になり支えてくださった地域や仲間の方々に心から感謝しています。

昨年、経営も委譲しましたので、そろそろ口数も減らし、背中を見ながらそっと後ろを歩こうと心に刻んでいるのですが、忙しくなるとつい忘れて、激しい意見が始まります。経営移譲に併せて認定農業者の件も、親子で共同申請し、認定していただきました。家族経営協定も家族が増えた今、内容を見直すことになり、昨年締結をやり直しました。長男も経営を引き継いでいく重責を感じていると思いますが、縁あって一緒に歩き始めた嫁と、手を取り合って自信と誇りを持って歩いてほしいと思います。

私も、夫と出会い、農業の道を歩き始めてから30年近い歳月が流れようとしています。農業の道のりは足取りの重くなる日も多々あります。けれども、「思い」というものは自分の胸にしっかり抱えて温めれば、必ず実現できると信じています。

「かごしまの『食』と『農』を考える」

(鹿児島県厚生農業協同組合連合会健康管理センター・副所長 草野 健氏)

歳をとったら機械操作を早めに

私は日本農村医学会の会員で、そこでは農作業事故の問題がいつも取り上げられるのですが、その実態がつかめない。鹿児島で以前調査したことがあります、1日以上仕事を休んだという事故を起こしていたのはすべて65歳以上の人でした。

歳をとると反応が鈍くなります。どのくらいかという、20代の人で実験したことがあります、自動車のブレーキを踏む反応は、20代だと0.3秒です。これが60歳以上は0.6秒になるといわれています。20代のお酒に強い人に、焼酎2合を飲んでもらい、グラウンドを1周してきて、このブレーキの反応速度をみました。通常だと0.3秒の人が、本人はほとんど酔っていないと思っていても0.5秒まで落ちていました。

60歳の人々の反応速度は、20代の酔った人と同じかそれ以上に鈍いということです。機械は20代の人に合わせて造られています。それを考えて機械

機械士会の方と力を合わせて

私の出会いの中の1つに、素晴らしい本との出会いがあります。私が嫁ぐ日に涙した母が私にくれた大切な本です。小林良正先生の「人生に花を咲かせる生き方」という本です。その本の一節に「同じ一生なら花咲く人生でありたい。豊かで美しい花が咲きますように」という言葉があります。

これまで幾度となくこの言葉に励まされ、勇気がわいてきました。私の心の杖ともいえます。それからもう一節「努力とは、一心に歩くこと。その道にたくさんの知恵がこぼれているから実を結ぶ」と結んでいます。皆様もそれぞれの地域で、様々な課題や悩みを抱えておられると思います。機械士会の運営においても、県単位での減少や市町村合併による支部の統合など、難しい課題が山積していますが、一人では解決できないことも、地域や仲間と知恵を出し合い、力を合わせれば、様々な形で魅力ある展開が期待できると思います。私たちサムアップレディースも、未熟ながら本日、皆様との素晴らしい出会いのなかで、事例報告の場を頂きました。関係機関の方々のご配慮と全国の会員の皆様に感謝いたし、活動のステップにして精進してまいりますので、今後とも皆様方の温かい御指導と御助言をよろしくお願い申し上げます。

を使う必要があります。歳をとれば、早めに操作する。それと、その調査でも事故は圃場からの出入りの時に多く起きていました。

平均寿命と健康寿命に7年の差

これからが本日の講演のテーマです。厚生労働省が来年から特定検診・特定保健指導を義務化します。これは、今31兆円かかっている医療費を抑制しようとしてのことです。

人間は必ず死ぬのですが、10人のうち7人はガンか脳卒中か心臓病で亡くなっています。日本人の平均寿命は男性が78、女性が85歳で長寿の国とされています。この平均寿命ともう1つ、健康寿命というのがあります。これは介護の必要な、虚弱高齢者といっていますが、それになるまでの年齢です。健康寿命と平均寿命の差が7年あり、この7年間に医療費がたくさんかかる。この差が少なければ、長く健康でいて、寝たきりにならな

いということです。この7年間を分析した結果、そのほとんどがメタボリックシンドロームからきているということがわかりました。要するにメタボリックシンドロームをコントロールすることによって、7年が短くなるのは間違いありません。

私はガンの研究をしてきて、どういう条件でガンが進行するかといった研究をしてきました。胃ガンはできてからその人が亡くなるまでに平均28年かかります。ガンは見つけることができる大きさになるまで平均で22~23年かかります。必ず見つけられるというのは25年ぐらいかかります。ですから必ず毎年検診する必要があるわけです。これが60年のひと、15年の人もいます。その差は何かということです。

ガンの進み方を遅くするには

胃ガンにならない方法を探したのですが、ないわけではないのですが、皆さんに言っても手遅れです。生まれた時からガン化が始まっています。しかし、ガンの進み方を遅くする方法があります。その根本は「食」で、ガンが進まないだけでなく、心臓病や脳卒中になりにくくする効果もあります。

どんな食事がよいかというと、カロリーが低いが栄養価が高いという、かつて日本人がとってきた食事です。米は、銀シャリでない方がよい。麦を入れたり、ヒエやアワ、キビを入れた雑穀が合っています。汁は、鹿児島には豚汁とかさつま汁がありますが、こういう具だくさんの箸が立つような味噌汁です。それと主菜と副菜ですが、主菜はタンパク質で魚や肉を1品。副菜は野菜料理です。これが基本で、理にかなっているのです。

昔は冷蔵庫がないので、食品を保存するために塩を使いました。そのため塩の摂りすぎが問題だったのです。それが旬のものだと塩分を少なく食べることができます。日本は、気候風土の関係でそうした食材がとれる国なのです。また、川の流れが速く、水がきれいで、稲を育てるのにそういう水を使ってきました。植生が豊かで、世界おいしい農産物ができます。

食事の前に「いただきます」と言いますが、食べ物そのものへの感謝の言葉です。その命を頂くのだと感謝して一口一口じっくりと味わって食べてください。味わいながら食べると、食べ過ぎに

はなりません。それと、旬のものを食べるということも大事です。

日常生活の中に運動を取り入れる

食べることのほかに、「運動」もあります。これには、スーパーで自動車を入り口の一番遠いところに止めて歩くというように、日常生活の中に運動を取り入れていくことです。これはほんのちょっとした気持ちの切り替えでできることです。

そして最後に一番簡単で一番楽しいことで、「一怒一老一笑一若」という言葉があります。怒るたびに老けます、笑うたびに若返りますよということです。この言葉を贈ります。

メタボリックシンドロームは、肥満、肥満の中でも内臓肥満です。それと血圧、脂肪、糖の2つ以上高い人をいいます。この中でメタボリックシンドロームに一番関係の深いのは糖です。なぜ笑うとよいのかというと、怒ると血圧が上がり、それだけでなくコレステロールも上がり、糖があがるのもわかっています。3つとも上がります。ところが、笑うと血圧は下がります、脂肪も下がり、糖も下がります。だから、笑うだけでメタボリックはなくなるんです。体重は落ちません。でもそういう生活が続けると内臓脂肪が減るというデータが出始めています。

それだけではなく、ガンを抑え込むNK活性も、怒ったり、ブスツとしたりイライラすると5分の1ぐらいに減り、笑うと50倍から100倍に増えることもわかっています。笑うとガンが小さくなります。

食を大事にすることが健康をつくる

私が言いたいのは、食を大事にするということです。「いただきます」の心をしっかり持つということ。その心で、味わっておいしく楽しくいただくに値する食材が、日本はたくさん穫れます。それと、食は文化ですから、作る人間とその人間が育んできた伝統、文化の中でしか食料はできてこないのですから、そういうことも含めて「食を大事にしましょう」ということです。それが結局、健康をつくる一番の近道です。ということは、農業を守ることになります。その根本から作っていかなくてはいけないと思っています。



消費者ニーズに応えた低コスト生産のできる

乾式無洗米機「ピカリ」完成。

乾式無洗米機 PKR-370 既製品

小型で機能満載 設置が自由自在 無残粒

集塵機オプション



●白米の表層糠を多量ハイールブラシできれいに取り除いた無洗米に仕上げます。●処理能力(精米): 100~400kg/h ●所要動力: 3.725kW ●型式: PKR-370

株式会社 山本製作所

本社/〒994-8611 山形県天童市大字老野森404番地
TEL.023-653-3411 FAX.023-654-7781
ホームページアドレス/ <http://www.yamamoto-ss.co.jp>
●詳しいお問い合わせ先(農機営業部)
TEL.023-653-3410 FAX.023-654-7781

Dr. 文武の農作業安全

残暑対策と収穫準備

記録的ともいえる猛暑日の連続する8月でした。地域によっては降水量も少なく、稲の稔実に気をもむこともあったのではないのでしょうか。

9月に入ってもまだ真夏日があるようです。陽の長さは確実に短くなり、少しずつ涼しさは増すでしょうが、太陽のもとでの作業では、熱中症対策を十分にしてください。記録によれば11月頃でも熱中症にかかることがあるようです。ミネラルウォーターなどの携行を忘れないでください。

早場米地域では、すでに稲刈りも終わったのでしょうが、その他の地域では、そろそろ収穫の準備に着手する季節です。コンバインの点検整備だけでなく、収穫作業に使用するすべての機器類と作業者の「身体検査」を入念に行ってください。作業中のトラブルは多くのロスを生じさせます。事前の念入りな点検を行ってください。コンバインやバインダ、乾燥機などはしっかり点検するでしょうが、モミ運搬用の軽トラックは、タイヤの

空気圧点検をしていますか。空気圧が低いままで、時として、積載量オーバーの状態で行くと、タイヤ破裂という事故を引き起こす恐れがあります。また、いくつかの現場でコンバインにかかわるヒヤリハットをお聞きしましたが、コンバイントレーラーを利用して圃場間移動をする際に、路面凹凸の衝撃でけん引部が外れる、折れる、といった事故や、荷台を止めるフックが外れてコンバインが滑り落ちる、さらには、トレーラーにコンバインをしっかり固定しないことによる転落などの事例が報告されました。ちょっとした危険予測をすることでヒヤリハットを防ぐことは可能です。ヒューマンエラーを起こさないように秋作業の準備を進めてください。

また9月下旬は、台風の上陸が多い時期でもあります。水田見回りは、水がひいてから行いましょう。お年寄りがおぼれるのを防ぐために、「水路、田圃の見回りは雨がやんでから」を理解させてください。

海外訪問記 : 日本農業機械化協会 松本 訓正 発展の条件が整うベトナム

8月中旬に機会を得て南ベトナム(ホーチミン市やメコンデルタ地帯)を訪ねました。

熱気あふれるホーチミン

1980年代後半に訪ねたホーチミン市は、復旧から復興への途を探る時期で中華街チョロン地区も人通りが少なめでしたが、今回、市内で行き交う人々には生活向上への熱意が漂い、お話ができた方々には少ないチャンスを利益につなげる逞しいビジネスセンスが感じられました。

また、ホーチミン市内を巡ると、国際ビジネスマンの期待に応える高層ビルや高級ホテルが増えていることが分かります。我らの宿のお隣は最新の超高級ホテル。その最上階、オープンエアのラウンジから夜の景色を眺めると、川面に浮かぶ夕食クルーズで食事を楽しむ姿や川岸に立ち並ぶネオン広告塔がオリエンタルな雰囲気を楽しませてくれました。



ロングこぎ剛とあざやか処理剛。
脱穀は、あざやかに進化する。

YANMAR
ヤンマ-コンバイン
アスリートジャスティ
Athletejusty

2条刈 AJ216 [H] (16.5PS) 全刈 AJ318 (18.5PS)
3条刈 AJ218 [H] (18.5PS)

また同じホテルの1階、高級ビュッフェレストランは凡そ満席でした。欧米からの観光客だけでなく複数の地元ビジネスマンとおぼしきグループが夕食を楽しんでいるのです。

ホーチミンではベトナム料理を始め東西の料理が十分に味わえます。ピアノバーならぬ小楽団中華料理店では、音楽も味も調度品も堪能して2千円ほどの価格でした。また通訳氏からサキソフォン中心のジャズバーがあると聞きましたが、疲れを癒す音楽系サービス産業も発展しているようです。



エステ店マニキュア部門（ホーチミン市内）

経済発展の条件

さてベトナムの基礎条件を見ますと、人口増加率や15歳以下或いは40歳以下の人口比率が高いこと、質の高い労働力が豊富であり2005年の賃金は日本の6%程度であることなど人的資源に恵まれている他、政治・社会の安定性や8300万人の潜在成長は大きな魅力です。

加えて、1995年のアセアン加盟、近年の日米との投資・通商協定の締結、本年1月のWTO正式加盟など対外経済関係が改善され貿易投資が急増するなど条件が好転しています。具体的に海外からの投資を見ますと、2004年に22億2200万ドルのところ2006年には88億2700万ドルへと毎年倍々ゲームで急増しています。また1人当たりGDPは、2004年550ドル、2005年640ドル、2006年715ドルと経済発展の節目となる1000ドルへ着実に

近づいています。

そして日本との関係では、地理的に中国とアセアンの中間に位置していること、日越関係や対日感情が良好なことも見逃せません。

観光客の増加は飛躍の第一歩

今、ベトナムを訪ねる観光客は欧米を含めて着実に増え、2007年には1-4月だけで146万人に達したとの情報がありました。この観光客の増加は、観光収入として経済発展を牽引する大事な要素、大切に育てたいものです。

1980年代後半のタイでは、VisitThailandとの標語を掲げ、観光による外貨獲得に力を注いでいました。伝統のタイ文化や英仏の植民地政策から独立を維持したタイ王室の歴史、仏教寺院や微笑みの仏教徒などがその魅力ですが、これらの観光客を高級ホテルや航空交通網など高品質のサービスで迎えて観光収入を増大させ、タイの経済発展に貢献したと聞き及びます。

ベトナムの観光素材は、中国の影響を受けつつ中国の侵略を退けた古代・中世史やその文化、フランスと米国の力に耐えながらこれを跳ね返して独立するまでの近代・現代史、多様な文化を持つ山岳民族、自然が残る涼しい高原や海岸リゾート地域など、タイに負けない魅力があります。

タイなど観光先進国の経験からも大いに学んで観光産業を育て、経済発展に結びつけがえるものと期待しています。

縦横に走るオートバイ

さて訪問中、バイクの話題は尽きませんでした。ホーチミンと言わずメコン川を渡ったカントーと言わず、道路は何処でもバイクが湧いて来るように現れて飛ぶように走り去ります。3人乗りは当たり前、中には家族5人で乗る人もいてさながら自家用車です。また、夕暮れ後ともなると市街地の道路は家族連れや恋人同士のバイクが連なって走ります。夕涼みを兼ねた散歩代わりに見えました。



しかし問題はバイクの走り方。これは 13 年前の
ハノイで見たことと変わりません。日本なら道交
法違反が少なくないでしょう。先ずスピード狂で
あること。次にバイクは車と同じ右側走行ですが、
状況を見逃して左折します、なかには右側の歩道
側辺りを堂々と逆行するバイクもいます。そして
自動車レーンまで道路一杯に広がって走るため、
自動車は警笛をさんざん鳴らして右レーンへ寄せ
てから追い越さなければなりません。交通警官も
いましたが、取締は少ないように見えました。



沸いてくるバイクと高層ビル（ホーチミン市内）

こんなバイク走行についてある日本人が言いま
した。バイクを運転すると言うよりは、狭く混み
合った祭りの夜店通りで気ままに歩く感覚ではな
いかと言うのです。確かにそうかと思いますが、
将来の自動車社会を考えるとちょっと心配です。

以上、南ベトナム見て歩きでした。（統計値など
は、ジェットロ資料やネット情報などから引用しま
した。）

業界短信

クボタが鉄コーティング直播栽培で講演会と現地視察

8月2, 3の両日、新潟県下で「水稻鉄コーティ
ング直播栽培講演会～環境にやさしい省力、低コス
ト米づくり」を開催した。これは、クボタ夢農業「イ
ノベーションイベント」と位置づけられた催しで、
初日は新潟テルサで講演会。東大名誉教授・森敏氏
が「イネによる鉄の吸収・移行・転流の制御機構」、
近畿中国四国農研センター・山内稔氏が「水稻鉄コ
ーティング直播技術」、同・井上博喜氏が「鉄コーテ
ィングによる稲種子病害の防除法」、クボタ・宮越疆
氏が「新潟県の直播栽培の現状と取り組みについて」
講演。翌3日は現地を視察した。

全農が改革の進捗状況を農林水産省に報告

農林水産省に提出した業務改善計画では農業機械
におけるコスト低減の取り組みとしては、担い手向
け輸入農機の取り扱いを踏まえた大量生産機をベー
スとした「J Aグループ独自型式」の扱いを始めて
おり、第1段として、従来の本格5条刈クラスのコン
バインの実勢市場価格に比べ概ね 20%安い「多条

刈コンバイン」を3月に上市した。また、第2段商
品として大規模果樹栽培の担い手ニーズへ対応する
「高性能・高品質のスピードスプレーヤ」を6月に
上市した。このSSは薬液タンク容量 1000 L、46 P
Sエンジン搭載で、従来の同クラス対比で 20%安価。

三菱農機が中型トラクターGOシリーズ5型式など発表

新発売するのは、トラクターGOシリーズ5型式、
乗用田植機マイレディリードLVシリーズ2型式、
管理機マイミニMMシリーズ3型式。

トラクターは水田・畑作両方での高能率と快適作
業を両立する中型で、大排気量（総排気量 1.758 L）
4気筒ディーゼルエンジンを搭載し、作業効率をア
ップ。主変速ノークラッチの「イーシフトレバー」
を採用（V仕様）し変速ショックが少なく、指先で
簡単に操作できる。乗用田植機はまくらっこ仕様の
5条/6条で、低振動・低騒音の新型GBエンジンを
搭載し、使い勝手を向上させた。

ヤンマー農機が新商品として

トラクター2シリーズ、乗用田植機、管理機など発表

新商品は、トラクターが、エコトラジャスティ E G200 シリーズ、エコトラプレミアム E G600 シリーズ。乗用田植機が V P 1。田植機アタッチメントの T S 4 / T S 5 箱施用剤散布機。ミニ耕うん機ポチ M R T 65 E X ・ A、ロータリー専用管理機 R K 40 シリーズ、さくらんぼ選果機 S K - 1、除雪機 J X / J T シリーズ。

このうちトラクターのエコトラジャスティ E G 200 シリーズは、好評の E F 200 シリーズの基本性能はそのままに、快適性向上の「静音キャビン」、高能率な「J-チェンジ」などの特徴を追加。環境に優しい新型直噴ディーゼルエンジン搭載している。また、エコトラプレミアム E G 600 シリーズは、あらゆる作業速度に対応する H M T 無段階変速トランスミッションの搭載、路上走行も簡単快適なアクセル連動ペダル変速などが特徴。

タカキタがトラクター用除雪機を新発売

スノーブロワ 2 シリーズで、S B 1570 E シリーズは除雪幅 1590mm で適応トラクターは 18 ~ 26 P S。S B 1770 E シリーズは同 1740mm で同 22 ~ 40 P S。第一の特徴は、投雪距離をアップして最大 30m としたこと。P T O 回転速度 1000 r p m に対応することでこれを実現している。また、オーバーハングの少ないセンタードライブ方式を採用、特殊チップオーガでスムーズに雪をかき集めることができる。4 枚羽根のプロワで雪を強力に吹き飛ばし、オーガのサイドカバーを内側に収め側面をすっきりさせることで、壁際までしっかり除雪できる。

大島農機が中間米米選機を発売

新発売したのは中間米米選機「S S 7」。これは、経営規模が大きくなるにつれ、農家が米を出荷する際、自動計量選別機の小米口から出る一般米に近い良玄米が増えるため、それらを中間米として再選別し、主食や米菓用に向けるもの。米の歩留まりを良くすることで、担い手農家を支援する。主な特徴は、

1. 自動計量選別機の小米出口に簡単にセットできる
2. 大径選別網により小型もみすり機の出荷米用米選機としても利用可能な処理能力を持っている
3. 選別網の交換や掃除は工具なしで行える
4. 投入口の高さ（機体高さ）は、4 段階の設定ができ、他社の米選機にもセットできる

— など。

日立建機ティエラがトラクター4機種 25 型式など発表

発表したのは、トラクター C T X - 7 シリーズ 4 型式、同 N T X - 7 シリーズ 18 型式、乗用型田植機、乗用型ミニローダ、自走式ウッドチップパー。このうち、トラクター C T X - 7 シリーズは、16.5 ~ 22.5 馬力で、本格キャビンで快適作業ができ、T D 仕様は電子ワンタッチにより作業機の上げ下げがハンドル手元のレバーでできるなどの特徴を持つ。各型に共通してブレーキを使わず極小旋回できる「ノーブレーキ倍速」、明るい「マルチリフレクタヘッドランプ」などを装備している。

N T X - 7 シリーズは、22 ~ 55 馬力。マイコン制御で高精度作業を実現する「N e W スーパーテラコントロール」(T D 仕様) や、多機能をまとめて一斉にオン・オフできる「ワンタッチ耕うんモードスイッチ」を採用したほか、トラクターの状況を一目で確認できる「ニューティエラナビ」などを装備している。

近畿農政局などが細断型ロールベアラの現地検討会開催

8 月 7 日に京都府綾部市の京都府畜産技術センターで行われ、細断型ロールベアラとラップマシーンによるコーンサイレージ体系を圃場実演と講演会で検討した。現地検討会では、メーカーのタカキタから体系説明がありその後、細断型ロールベアラとラップマシーンによるサイレージ調製の実演が行われた。また、講演では、生研センター畜産工学研究部の志藤博克主任研究員が「細断型ロールベアラの開発と高品質コーンサイレージの調製技術について」と題して開発の狙いなどを語った。

オーレックがハンマーナイフローター発売

クローラタイプで 8 馬力の H R C 662、10 馬力の H R C 802 の 2 型式。特徴は軽量かつコンパクトなこと。このため不整地でも取り扱いが楽にでき、傾斜地走行も安定感がある。刈取性能は現行のタイヤ仕様のハンマーナイフローターと同じで、その良さを引き継いでいる。

山本製作所がホームページに乾燥機の点検ビデオ

本格的な収穫シーズンを前に、同社のホームページに「乾燥機の作業前・作業後の点検ビデオ」を掲載した。同社のホームページを開き「2007 年 7 月 31 日、乾燥機の点検ビデオを掲載しました」をクリックすると、使用前の点検箇所・使用後の点検箇所が表示され、ビデオ（動画）によりわかりやすく点検

操作が紹介されている。点検の仕方も具体的に紹介されているため、これを参考に誰でも簡単に点検作業ができる。

スガノ農機がエコノミー型レーザーレベラー発売

新発売する「均平職人エコノミー」2 型式は、適応馬力 40～80 馬力、作業幅 3.2m の L T 320 P L 1 と L T 320 P L 2。レーザーコントロールセットの内容は、L T 320 P L 1 は、水平平均作業のみの勾配機能なしで発光機は装備。L T 320 P L 2 は、水平平均作業のほか傾斜均平作業にも対応、勾配機能を有した発光機を装備した機種となっている。同機は、トラクターを変えてもメイン回路の作動油が混入せず、また、油圧バルブの配管を取り外すことがなく、ゴミに起因するバルブのロックが起きないなどの特徴を持つ。

ヤンマー H B ディーゼルエンジンが 日本機械学会の機械遺産に認定

日本機械学会が創立 110 周年を迎えたのを機に、機械遺産を認定したもので、ヤンマー小形横型水冷ディーゼルエンジン H B 型など 25 件が選ばれた。ディーゼルエンジン H B 型はヤンマーが世界で初めてディーゼルエンジンの小形実用化に成功したモデル。ヤンマー創業者の山岡孫吉氏が、ドイツ・ライプチヒの見本市で見たディーゼルエンジンのもつ優れた省エネ性・安全性に心を奪われ、開発に邁進。昭和 8 年に開発に成功した。大阪企業家ミュージアムで見ることができる。

全農機商連がメルマガの配信を開始

8 月 10 日から、組合員企業への情報提供の一環としてメールマガジンの配信を開始した。毎月 10 日に配信する。主な内容は、

1. 全農機商連関係 = 全農機商連、商協、関係団体のスケジュール、各種会議情報、展示会情報など。
2. 農政の動き = 農林水産省のプレスリリースなど。
3. 業界の動き = 法令、各種助成事業など。
4. 統計データ = 日農工、農林水産省の統計、各種景況調査など。
5. 共同購買事業の案内 = 新製品、キャンペーン、価格変更など。
6. その他 = 出版物の案内や参考文献の案内など。

現在のところ、このメールマガジンは配信対象を道府県商組と組合員に限定している。

クボタがタイにトラクター製造の合併会社設立

タイ王室系大手企業サイアムセメント株式会社（バンコク市）と合併会社の設立契約を締結、合併会社サイアムクボタトラクタを設立した。同社はタイ国内市場向けトラクター生産工場を建設、09 年 3 月に量産開始する。投資総額は約 17 億 6 千万バーツ（約 70 億 4 千万円）。初年度従業員数は約 300 名、生産能力は年間トラクター 2 万 5 千台。2010 年に売上高 70 億バーツ（約 280 億円）を目指し、将来的には欧米への安価型トラクターの輸出も視野に入れている。